



Marche

2008.3.31 Vol 39

発行 財但馬地域地場産業振興センター
〒668-0041 兵庫県豊岡市大磯町 1-79 1@0796-24-5551代



霧吹きで杞柳（コリヤナギ）を湿らせながら「柳行李」を編んで行く寺内さん。

こだわりの
但馬案内

豊岡杞柳細工 たくみ工芸

寺内 卓己
（伝統工芸士）

今、「柳行李」ただひとりの伝承者。

たくさんの観光客が訪れる但馬の小京都・出石。名物の皿そばや散策を楽しむ人がそぞろ歩く「酒蔵」のすぐ側に、寺内さんの「たくみ工芸」があります。

寺内さんは、杞柳を材料に柳行李や行李鞆、文庫箱などを編む豊岡杞柳細工の伝統工芸士のひとりです。柳行李が最盛期の昭和初期は、約1万人もの職人さんが豊岡周辺に居たそうです。しかし、平成の今、柳行李が編める人は、寺内さんひとりになってしまいました。

「でも最近、柳行李には追い風が吹いています。衣類の収納は、やっぱり柳行李でないとダメという声や、柳行李だと着物を着る時にサラッとしているという感謝の言葉をいただきます。そして、懐かしいものという捉え方ではなく、本モノで良いものが欲しいから柳行李が欲しいというお客さまからのご注文が、何よりもうれしいです」という寺内さんの手は、リズムカルに動いて、見とれてしまいます。



伝統工芸士の
寺内 卓己さん



参考品の昔の杞柳製品。学ぶところがたくさんあるそうです。



寺内さん作の柳行李や行李鞆（柳行李のトランク）、行李アタッシュケース、文庫行李など。

柳行李の特徴は、軽くて、強い。そして抜群に通気性が良くて、防虫効果が高いことです。そのため一般のお客さまや神社仏閣、芸能関係、大学など、全国各地から注文が舞いこんでいます。そして、北は青森、南は九州から、修理の依頼が届きます。

また、「ようやく見つけました。まだ編んでる人が居たんですね」と言って、ひとりで柳行李を4～5本も注文していくお客さまや9本も注文するお客さまもありました。個性的で他にはないオリジナルなデザインを求めて、行李鞆を注文する人もいます。そのため寺内さんは、休む暇もないそうです。しかも、使うほどアメ色に育つ柳行李は、布のフチのもので50～60年も持ち、革のフチのものだと百年は持つそうです。今は数万円もする柳行李ですが、子や孫の代まで使える超ロングライフ製品なのです。



豊岡には、寺内さん以外にも十数人の伝統工芸士がおり、飯行李や各種行李バッグやかばん、文庫箱などを編んでいます。「たくみ工芸」でも販売中。

たくみ工芸

〒668 0215 兵庫県豊岡市出石町魚屋99

☎0796-52-3280

<http://yanagikouri.com/>

info@yanagikouri.com

世界の宝石、鉱物、奇石、化石の博物館!

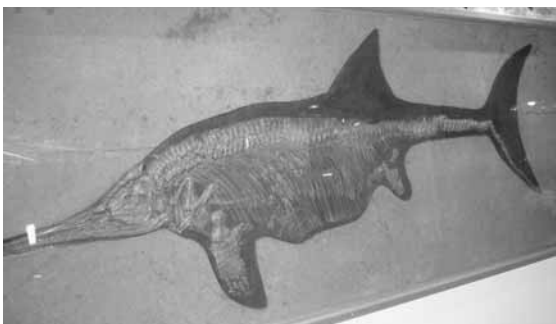


展示は常時1,500点。世界中から珍しい宝石、鉱物、奇石、化石などが並ぶ。

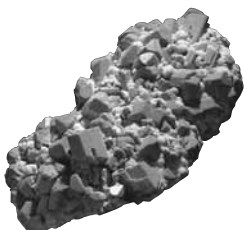
天然記念物「玄武洞」は、城崎温泉にほど近い円山川の対岸にある、まさに石の芸術です。その公園の玄関口の船着場に「玄武洞ミュージアム」があります。

もともと昭和51年に玄武洞資料館として開館し、昭和58年に現在の建物を建築。収藏品や展示を充実し、兵庫県からも第11号目の博物館相当施設として認められ、平成元年から「玄武洞ミュージアム」の名前で運営されています。

展示は、世界から奇石や化石、鉱物、宝石などが集められ、実に常時約1,500点ものコレクションが並んでいます。展示場に一歩足を踏み入れると、そこは石・石・石のビックリ世界です! 様々なカタチや色彩の神秘、太古の生物の姿、宝石や鉱物の輝きは、感動ものです。



入り口で来館者を迎える「イクチオサウルス」の全身化石。



アメリカでも話題をさらった、世界一のアマゾナイト。



砂漠に咲く鉱物の花「砂漠のバラ」。数万年の歳月を経て生まれます。

但馬案内
こだわり

玄武洞ミュージアム



「これからは、この山陰海岸国立公園の立地を生かし、ジオ・ツーリズムの拠点づくりや、ジオ・ボランティアの養成などを進めたい」と語る田中理事長と平田研究員。

入り口では、まず2m以上もある「イクチオサウルス(ジュラ紀の魚竜)」の全身化石が出迎え、世界一のアマゾナイトや菱マンガンも展示され、「砂漠のバラ」や「ガラス石」など不思議な石も見られます。

この博物館を訪れた作家の小松左京さんは「ここには地球の窓がある!」と感動の言葉を残したそうです。また、玄武洞観光客や城崎温泉客を中心に年間約2万人もの方が訪れる人気の博物館です。1階は、(株)玄武洞観光の土産物店やレストラン、2階に玄武洞ミュージアム、3階に豊岡杞柳細工ミュージアムがあります。



イクチオサウルス、シーラカンス、アンモナイト、恐竜の糞まで、さまざまな化石がいっぱいです。



玄武岩は160万年前の火山活動で、マグマが冷えて固まった時に規則正しい六角形になった火山岩。玄武洞は、玄武岩が不思議な景観を見せます。

玄武洞ミュージアム

〒668 0801 兵庫県豊岡市赤石1362

☎0796・23・3821

[http://www3.ocn.ne.jp/~genbudo/
genbudo1@viola.ocn.ne.jp](http://www3.ocn.ne.jp/~genbudo/genbudo1@viola.ocn.ne.jp)



みつばちたちと花々からの贈り物です。

「辻井養蜂場」は、国道312号線を走り、豊岡市日高町の城山トンネルを抜けると、道路沿い左手にあります。木をふんだんに使ったウッディな店内に、黄金色の甘～い宝石、はちみつやその関連商品が美しく並んでいます。

実は、この店で販売しているような日本のミツバチがせっせと集めた「純粹」な「国産」のはちみつは、全体の5%ほどの貴重なもの。ほとんどののはちみつは、輸入品だそうです。

まず、優しい香り和高貴な味の「れんげ」、あっさりとして結晶しにくい「アカシア」、濃厚な味と高い香りの「マロニエ」、フルーティな味と香りの「みかん」、爽やかなハーブの香りがある「菩提樹」、ソフトな香りともろやかな味の「クローバー」などがあります。春を届ける「さくら」は、蜜にも花の香りがほんのり感じられ、「そば」はちみつは、独特の色と香りがあり、豊富に鉄分を含んでいて女性から注目を集めて



商品は、ローヤルゼリーやプロポリス、女王蜂の蜂の子、巣蜜などの他、長時間使えてかわいい蜜蝋キャンドルや自然な蜜蝋ワックスなど、ミツバチからの贈り物です。

こだわりの
但馬案内

国産純粹はちみつ

辻井養蜂場

辻井 健一



養蜂家の辻井 健一さん。今では3代目の養蜂家として、息子の淳也さんもいっしょに作業し、お店は奥さんとお嫁さんが守っています。

います。この他、キハダやあざみ、はぜ、そよごなど、約13種類ほどの自家採集の「国産純粹はちみつ」が販売されています。花の種類で、はちみつの味は全部ちがいます。ぜひ、味を比べてみてください。

「花に蜜がたくさんある時のミツバチって、小さなカラダでせっせと蜜を集めて、かわいいもんです。そして、おとなしくて、攻撃もしてこないですね」という辻井さんは、養蜂家のお父さんの背中を見て育ち、自分も養蜂家になって約37年になります。

1月～4月初は淡路島へ、その後、地元の日高町で、5～6月は香美町、大屋町へ。6月～晩秋まで北海道へと、ミツバチといっしょに12月以外の1年を過ごします。

おいしいはちみつを、もっと料理に使ってみては？三杯酢や煮豆の調理にどうぞ。また、梅の実をはちみつだけに漬けたウメジュースは、おすすめです。適量を水で割ってお飲みください。

北海道での養蜂風景。昭和23年、先代の辻井東太郎さんが移動養蜂をはじめ、60年の歴史を数えます。



辻井養蜂場

〒669 5315 兵庫県豊岡市日高町浅倉 248 1

☎0796・42・2329

<http://tsujii83.com/index.html>

info@tsujii83.com

自然の美しさを生かして、
ただひとつのモノづくりを。

岡本さんのバッグ作りは、山に入って木の葉を集めたり、堤防を歩いて植物のツルを採ったり、剪定した木の枝を細かく刻む作業からはじまります。それは綿の帆布生地を、草木を使って染めることからオリジナルでオンリーワンの商品づくりにこだわっているからです。

但馬の山野で育ったさくら、もみじ、南天、ハラン、ユズリハなどの表情豊かな葉をワンポイントで染めた後、全体をけやきやクリ、よもぎや柳、ピワなどの天然染料でじっくりと“自然の色”に染め上げたバッグ生地は、KAZUバックの世界でひとつしかない味わいです。さまざまな要素が絡み合い、二度と同じ色には染め上がりません。それだけに楽しみや変化との出会いがあります。



生地を染めるために、クリのイガを煮て、天然の染料を製造中。



バッグ生地のワンポイントに、染め込んだ南天の葉。



ハランの葉や蔓植物をあしらった草木染めバッグ。取っ手は使い込むほど味わいのある多脂革。



岡本さんのバッグは、全てが手作り。お客さまの要望にも、できるだけ対応してもらえます。

こだわりの
但馬案内

草木染め袋物 KAZUバックおかもと

岡本 一良



「KAZUバックおかもと」の商品は、豊岡市の「じばさんSHOP」や「カバンステーション」で販売しています。

また、バッグの取っ手には、使い込むほど味わいが増す多脂革を採用。これもアメ色に変わる色の变化や柔らかな風合いが楽しめます。そして、裁断し、ミシンで縫製し、金具を取り付けて仕上げるまで、全部、岡本さんひとりだけの作業です。そのために一日に2~3個しか出来上がりません。もちろんデザインもオリジナル。いつも、どんなデザインにしようか、女性雑誌を見たり、奥さんの意見を聞いたりして、工夫を続けています。「同じことはしたくないですね。いまま研究の毎日です」というところも岡本さんのこだわりです。虫食いのクズの葉っぱやさくらの葉が、岡本さんの手で自然の美しさを奏でるバッグの模様になる……。これから少しずつ進化を続け、進歩を続けます。



オンリーワンの草木染めバッグを追求する岡本一良さん。

KAZUバックおかもと

〒669 6123 兵庫県豊岡市小島97

☎0796・28・2092

メール:kazubag8374@yacht.ocn.ne.jp

浜のおかみさんの
手作り料理の味わい。



「神葉煮」は、兵庫県の「ふるさと認証食品」です。“兵庫県の地元の素材”を生かして、“自社で製造”した“添加物のない”安全な食品”の基準をクリアした製品が認定されます。

しっかりした味があり、ごはんが進む！お酒のアテにもおすすめ！なのが、海草のホンダワラを佃煮に加工した(株)カネ貞の「神葉煮」です。浜のおかみさんたちが、むかしむかしから受け継いだ手づくりの佃煮で、味わい豊かな地元の素朴な料理を商品化した“浜のロングセラー商品”です。

「神葉煮」は、認証の基準がきびしいといわれる兵庫県の「ふるさと認証食品」の認定を約10年前に取得。地元の旅館や民宿の朝食にも小皿に乗せて出されています。その機会に「おいしい、おいしい」と食べていただいて、お土産に売れることが多いそうです。いわば、食べればわかる、おいしさですね。

このジンバは、佃煮だけでなく、昔から港では縁起のいい海草として、結婚式の吸い物にしたり、干

こだわりの
但馬案内

株式会社カネ貞

モノづくりで、
コウノトリを応援したい。



これからは、長袖やカラーバリエーションの展開、紳士用の追加も検討されています。「じばさん SHOP」でも販売中です。

2007年9月、国の特別天然記念物・コウノトリの自然放鳥を記念して、豊岡市で「チコニア」オリジナルTシャツが発売されました。これは地元にある神織興業(株)が、1,000枚限定で企画・製造したもので、売り上げの中からTシャツ1枚につき100円が、コウノトリの野生復帰事業に寄付されます。

もとは会社の60周年記念事業として、何か地元貢献できないか、という社長の発案でスタート。当初は4名の企画で進められました。そして、おかあさんと子どもがペアで着れるT



神織興業(株)は昭和24年(1949年)に操業開始。合成繊維の加工工程のナールやパレルウエアの生産を行う企業です。

こだわりの
但馬案内

チコニアTシャツ 神織興業株式会社

シャツが完成しました。製品は東レの特殊加工系「マイクロテングー」を使用して、ソフトな風合いの生地で、肌ざわりが良く、軽く、しかも保温性に優れている点が特徴です。

また、杉田扶実子さん(京都在住)の“新感覚の和風柄”デザインは、婦人用では、母の愛をイメージして、ハート型の中にコウノトリの親子を描いて前面にプリント。子ども用では、未来に羽ばたく子どもをイメージして、天使の翼型の中にコウノトリの親子を描いてバックプリントしました。カラーは、ホワイト・グレー・ダークブルーの3色。サイズは婦人用はM・Lの2サイズ、子ども用は90・100の2サイズがあります。

テレビや新聞などの報道で商品を見た方、神織興業(株)のホームページを見た方、豊岡出身の方などから購入の希望が寄せられるそうです。



「ciconia(チコニア)」は、コウノトリの学術名:キコニアの読み方を変えて命名。糸づくりから生地のカット、縫製などを自社で手がけて製品化されました。

神織興業(株)

〒668 0047 兵庫県豊岡市三坂町1 47

☎0796・23・1100

<http://www5.nkansai.ne.jp/com/sinsen1/>

わり案内

神葉煮

したものをしめ飾りにしていたそうです。また、神に仕えた馬が、食べ物がない時に、この海草を食べると飢えをしのだという伝説もあるそうです。

さて、製造元の(株)カネ貞さんの商品は「神葉煮」だけではありません。山陰特産の海鮮珍味製造販売の会社として、名物・松葉かにかやホタルイカなどはじめ、干しカレイやハタハタ、いわしフライ製造など各種魚類の加工製造販売を行っておられます。ぜひ、ホームページなどをご覧ください。

株式会社カネ貞

〒669 6122 兵庫県豊岡市瀬戸77 23

☎0796・28・2663

<http://www.kanesada.jp/>



ていねいな加工で、京阪神の学校給食でも評判がよいそうです。大正10年(1921年)個人創業。

「魚の加工に活躍する急速冷凍機」。鮮度の落ちが少なく冷凍します。



Made in Japan 「豊岡鞆」



鞆産業の沿革

豊岡の鞆産業は、但馬地域を代表する地場産業です。その歴史は古く、江戸時代より産業として発展した杞柳細工の伝統と技術を引継ぎ、昭和10年頃には豊岡の主産業となりました。その後、ミシン縫製の導入、オープンケースの考案、合成皮革・ナイロン等新素材の活用など改革を行い、国内でも有数の鞆生産地となりました。

地域ブランド「豊岡鞆」の誕生

地域団体商標制度を導入するために「商標法の一部を改正する法律」が平成17年6月15日に交付され、平成18年4月1日より同法が施行された。

これによって、地域の名称と商品の名称からなる商標の登録が、一定の条件を満たせば認められることとなりました。

豊岡の鞆製造メーカーからなる兵庫県鞆工業組合では、いち早く商標登録に向けて「豊岡鞆」地域ブランド委員会を立ち上げました。法の施行に合わせ平成18年4月に登録申請を実施。同年10月に登録が認められ、地域ブランド「豊岡鞆」が誕生しました。





地域ブランド「豊岡鞆」とは

豊岡で生産された鞆がすべて、「豊岡鞆」となるわけではありません。商標の使用条件を満たした兵庫県鞆工業組合の組合加盟の企業で、かつ製品基準に合格した製品に地域ブランド「豊岡鞆」として商標の使用が認められます。豊岡で生産された鞆の中でも、特に優れた商品ということになります。

地域ブランド「豊岡鞆」IFF出展

(財)但馬地域地場産業振興センターでは、地域ブランド「豊岡鞆」のPRと販路開拓及び鞆の産地「豊岡」の知名度向上を目的として、IFF(インターナショナル・ファッション・フェア)2008年1月展へ出展しました。
(平成19年度地域資源活用新事業展開支援事業費補助金を活用)

IFFは、アパレル・靴・バッグ・アクセサリ等のファッション製品が集まった総合見本市として開催されている展示会です。今回出展を行ったIFF2008年1月展は、2008年(平成20年)1月23日(水)~25日(金)の3日間にわたって東京ビッグサイト西展示棟で開催され、期間中約3万人の業界関係者が来場しました。

地域ブランド「豊岡鞆」はバッグコーナーへ出展。認定を受けた34アイテム53点を出品し、PRと商談に努めました。専門店、セレクトショップ、卸売業、百貨店、通販など多様な業種のバイヤーの方々に来場いただき、地域ブランド「豊岡鞆」のPRと販路開拓及び鞆の産地「豊岡」の知名度向上という当初の目的を達成できたと感じています。



貸室のご案内



多目的ホール (2F)



第1交流センター (2F)



第2交流センター (3F)



デザイン開発研究室 (3F)



コンピュータ室 (3F)



経営研修室 (4F)



講座室 (和室) (4F)

じばさんT A J I M Aでは、会議・研修・展示会・サークル活動はもちろん、講演会・発表会などあらゆるイベントにご利用いただける施設の貸し出しを行っております。

目的にあわせてご利用ください。

使用料金一覧

施設名	面積	定員	使 用 料					
			9:00~12:00	13:00~17:00	18:00~22:00	9:00~17:00	13:00~22:00	9:00~22:00
多目的ホール	322.6㎡	200~300人	20,000円	28,000円	31,000円	48,000円	59,000円	79,000円
第1交流センター	92.1㎡	50人	3,300円	4,500円	5,200円	7,800円	9,700円	13,000円
第2交流センター	33.7㎡	10人	1,400円	1,800円	2,000円	3,200円	3,800円	5,200円
デザイン開発研究室	86.4㎡	24人	3,100円	4,300円	5,000円	7,400円	9,300円	12,400円
コンピュータ室	89.3㎡	24人	3,400円	4,600円	5,400円	8,000円	10,000円	13,400円
経営研修室	92.1㎡	45人	3,600円	4,900円	5,600円	8,500円	10,500円	14,100円
講座室 (和室)	70.7㎡	35人	3,400円	4,600円	5,200円	8,000円	9,800円	13,200円

特別料金

1. 入場料を徴収するとき、又は営利を目的として使用する場合は、基本料金の5割の額を加算する。
2. 使用許可時間を延長して使用するときは、当該延長した1時間につき、当該使用区分にかかる基本料金の2割の額を徴収する。
3. 特別の設備・備品を使用した場合は、実費を徴収する。

設備名	使用料
グランドピアノ	1日 10,000円 1時間 1,500円
展示パネル	1日 1枚につき100円
金 屏 風	1回 (1日) 1対 4,000円
OHP	1回 (1日) 2,000円
テレビ・ビデオ	1回 (1日) 1セット 2,000円
プロジェクター	1回 (1日) 7,000円
紅 白 幕	1回 (1日) 1枚につき 1,000円
電気料金	多目的ホール 1日 2,500円
電気器具持込の展示会等	その他の室 1日 1,000円

お申し込み方法

じばさんT A J I M A管理事務室 (2F) 又は、お電話にて予約を承ります。予約後に「会場使用申請書」の提出をお願いします。

お申し込み先

財団法人但馬地域地産産業振興センター (じばさんT A J I M A)
〒668-0041 兵庫県豊岡市大磯町1番79号
TEL 0796-24-5551 FAX 0796-24-5553



URL <http://www2.nkansai.ne.jp/jibasan/>